

(別紙様式) 平成 25 年度 学校 自己 評価 システム シート (県立松山高等学校)

目指す学校像 建学以来の伝統である「文武不岐」に基づき、幅広い教養と礼節を備え、社会に貢献できる品格あるリーダーを育成する。

※ 学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

重点目標	1 「チーム松高」としての組織的指導力に基づき、生徒の学力向上に努め、進学実績を一層向上させる。 特にSSH研究開発実施計画の円滑な実施を通して、学校の更なる発展・活性化を目指す。
	2 自己の在り方生き方を常に考えさせ、心身ともにたくましい、常に挑戦者たる生徒を育てる。
	3 保護者、地域、同窓会との「絆」を深め、地域から一層信頼される学校づくりを進める。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成 目標を意味する。)は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価			
年 度 目 標					年 度 評 価 (2月1日 現在)			
番号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策	実 施 日 平成 年 月 日
1	ほとんどの生徒が国公立大学、難関私立大学への進学を希望している。「松高塾」をはじめとする学力向上の取組の充実により、進学実績向上に取り組んでいる。 これまでも3年間を見通した指導計画を実施しているが、今後更に「チーム松高」として組織的指導体制を確立していく必要がある。	(1)国公立現役合格36人、難関私立大学(早慶上理GMARCH)現役合格100人の実現 (2)SSH研究開発の実施と学力向上の取組 (3)授業改善による学力向上への取組 (4)保護者の進路意識啓発	①国公立大学・難関私立大学合格に向けた進学指導の充実 ----- ②「キャリア教育全体計画」の推進 ----- ③進学補習「松高塾」の量的増加と質的向上 ----- ①SSH計画書に基づく方策の実施 理数科学力向上の取組の推進 ----- ②進学力グレードアップ推進事業に基づく普通科学力向上の取組の推進 ----- ①授業改善の研修の充実 ----- ②生徒による授業評価の実施 ----- ①保護者説明会の実施内容の充実	○国公立大学現役合格36人(10%)、難関私立大学(早慶上理GMARCH)現役合格100人(28%)の実現 ----- ○「志」を立てる講演会の実施と高い進学意識の向上 ○オープンキャンパス参加方法の工夫改善と参加の徹底 ----- ○理数科・普通科特進クラスの合宿及び土曜松高塾の実施状況 ○「松高塾」の実施状況、生徒満足度 ----- ○SSH実施に伴う学校自己評価及び外部(運営指導委員会)評価 ○出前授業(8回以上)、研究機関等体験活動(2回以上)の実施 ○理数科の土曜松高塾(月2回)の工夫状況 ----- ○特進クラス及び希望者対象の最先端科学技術等の体験 ○特進クラス及び希望者クラスの土曜松高塾(月2回)の工夫状況 ○特進クラス及び普通科全体の進学実績の向上 ----- ○研究授業(2回)を実施し、管理職を含めた研究協議の実施 ----- ○アンケート実施(2回)とフィードバック(2回) ○生徒の授業満足度80%以上の確保 ----- ○保護者対象の進路説明会の実施(2回)とアンケート結果の活用 ○生徒の家庭学習時間増加への協力体制				
2	多くの生徒が基本的な生活習慣を確立しており、3年間皆勤賞も多い。 高い社会規範を確立し、社会のリーダーとして活躍できる生徒を育成することが求められている。 安心・安全な学校づくりを継続して行い授業に集中できる環境の確保に努める必要がある。 部活動指導では、県の上位はもとより全国一を目指す部員が多い。	(1)常に自己の在り方生き方を見つめさせ、礼節を備え、友愛の精神に満ちた強固な人格の育成 (2)学校行事、生徒会活動の一層の充実と活性 (3)部活動の効率的な実施と昨年以上の成果の実現(目指すは日本一)	①規範意識の確立 ----- ②「道徳教育全体計画」等の実施 ----- ③安心、安全な学校生活の保障 ----- ④生徒相談体制の充実 ----- ①生徒会行事の円滑な実施 ----- ①一層緻密な部活動指導体制の確立	○整容指導の実施(3回以上)と個別指導の徹底 ○毎朝の登校指導と毎日の遅刻者数ゼロの徹底 ○全教員による登校指導(10回)の実施 ----- ○在り方生き方教育の工夫改善 ----- ○地元警察との交通安全マナーアップ運動の連携 ○いじめ・問題行動ゼロの確保 ----- ○スクールカウンセラーを毎月1回招いての計画的活用 ○生徒相談委員会(月2回)の実施と職員研修(1回)の実施 ----- ○文化祭入場者数の増加等、学校行事の充実度 ○より充実した年間計画の検討 ----- ○全国・関東大会等へ10部以上の出場				
3	募集案内リーフレットの工夫、教員・管理職による中学校訪問や学校見学会、進学フェア、塾主催行事への参加等、積極的なPRに努めている。 さらに本校の良さを積極的にPRする工夫を重ねていく必要がある。	(1)生徒募集のより効果的な実施 (2)義務教育諸学校等とのさらなる連携の強化	①効果的な情報発信の充実 ----- ②中学校等の教育機関との連携 ----- ③地元小・中学校との緊密な連携	○生徒募集の充実に向けた職員研修の実施 ○学校案内、リーフレット等の改善と活用 ○ホームページの更新体制の確立 ----- ○中学校・塾訪問(4回以上)の実施 ○在学生による出身中学校訪問の実施 ○本校の求める生徒像の認知度 ○入試倍率の向上(普通科1.2倍、理数科2.0倍) ----- ○小・中学校出前授業や親子理科教室の実施 ○部活動の中高交流や指導教室の実施 ○松山高校科学展覧会(松高賞等)の実施				